

わかももの元気マガジン

Vol.10

自分の経験から常々思っている
まちづくりの信条は

一、とにかく取り組んでみる！

大学生の力を活かした活性化

地域おこし協力隊：まず動く

一、最初から一歩でなくて良い！

トップは疲れる。まずは楽しく

一、他人を思いやる！

人には様々な事情がある

一、苦まないことは得意な人に！

一人で背負わず、苦しい物にしない

一、仲間・応援団を創る！

基本中の基本

地域を変えようと思えば同じ！！

長津笑楽講 忠隆司

CONTENTS

【特集】

よそもの・わかもの
との協働で

地域を盛り上げる

2

「仕事を知らう、地域を知らう！
公開特別講座」
で広がる子どもたちの未来
あらかわ地区まちづくり協議会×荒川高校

3

「わかもの」の「よそもの」目線で
地域の魅力を発掘する
山北地区×明治大学

4

村上の魅力「わかもの」が形に
する
村上市観光協会×長岡造形大学

4

自然を活かした協働の取り組み
高根集落×キャンマークディングジャパン
グループ・株TOTO

5

なぜまちづくりには「よそもの」と
わかものとの「よそもの」が必要か
雑感

6

まちづくりの拠点
村上地域「コミュニティ空間」土間ん中「
あらかわ地区」荒島保育園

7

面白い人・取り組み紹介インタビュー
農業女子・時田千秋さんに直撃！

8

地域団体紹介
長津笑楽講

特集

よそもの・わがものとの協働 で地域を盛り上げる

地域を元気にするためには「よそもの・わかもの・ばかもの」の力が必要だと言われています。「わかもの」は地域に活気を与え、「よそもの」は、外からの視点で“当たり前”になっている地域の魅力を発掘してくれます。そこに、「バカ者」と思われるほどの固定観念にとらわれないアイデアや情熱、行動力が加わると、地域は元気になっていくという考えです。

今回は、「わかもの」「よそもの」との協働に焦点を当てて、村上市内で行われている取り組みをご紹介します。



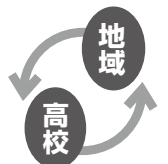
今、学校では、めまぐるしく変化する社会の中で、子どもたちが将来、社会的・職業的に自立し、変化にたくましく対応しながら、自分らしい生き方を実現する力に身につけるための“キャリア教育”に力を入れています。

あらかわ地区まちづくり協議会育成部会では、新潟県立荒川高校と協働して、地域連携型のキャリア教育に取り組んでいると、平成25年から「仕事を知らう、地域を知らう!公開特別講座」を開催しています。

平成26年度に講師をされたのは、ケアマネージャー・銀行員・パティシエ・マジシャン・作業療

法士・理容師・電気屋・化粧品会社代表の方と様々な職種の方々8名。仕事の内容、やりがいと魅力、将来の夢に向かう計画づくりなどの講義や、現場での職業体験もあり、子どもたちにとっては地域の人が直接学ぶことができる良い機会となりました。村上で働く講師の方々の生の声を聞くことで、自分自身の進路や、未来についての考えが深まったようです。

地域、そして人とのつながりを大切にする教育によって、明るく照らされる子どもたちの未来。そして、成長した「わかもの」の力が村上で発揮されることを思うと、期待に胸が膨らみます。



「仕事を知らう、地域を知らう!公開特別講座」
で広がる子どもたちの未来

あらかわ地区まちづくり協議会 × 荒川高校

5月に行われた「百姓やってみ隊」の活動では、畑を耕してニンニクやタマネギを植えました！6月は、さんぼく軽トラ市をお手伝い。毎月活動をしています。



地域づくり楽習会inさんぼく（H27.3.15）での発表の様子。



フィールド調査の結果を発表するために山北へ来たときの1枚。山北へ来るのがいつも楽しみです！



さんぼく楽習会に参加したときの集合写真。地元の方から山北への愛情を感じます。



「わかもの」の「よそもの」目線で地域の魅力を発掘する

山北地区×明治大学

文責：百姓やってみ隊 新隊員 井上有紀

私が初めて山北を訪れたのは明治大学農学部ゼミでのフィールド調査実習の時でした。たった1週間弱で山北について調査し、課題と改善策を提案する、というハードなもので、山北の良さを存分に楽しむ時間はあまりなかったものの、集落の方や役場の方の話から伺える山北への愛情、地域に根付いた結束力や、ずっと続いてきた地域活動への思いが印象に残っています。

もともと山が好きで、山北の美しい自然にも惹かれていました。景色だけじゃなく、山の近くの暮らしには、山と共に生きるための様々な知恵があって、それが本場に魅力的なのだ、初めてはつきり感じたのは山北のような気がしません。東京で育った私の生活環境にはないものでした。

それから半年たち、私はこの4月から、縁あって新潟市の内野町で商店街のお米屋さんに関わる活動をするようになりました。山北にも足を運びやすくなるなあ、と

思っていたところ、調査の時に知り合った山北の方に誘われて、山北の農業に関わる「百姓やってみ隊」に参加することになりました。

今年度からこの企画は少しやり方を変え、参加してもらうだけでなく、共に様々な活動を企画していくようなコンセプトとなっていて、私は何か力になれることがありそうだと力んで参加し始めました。何度か山北に通った今、山北の人と文化を単純に全力で「楽しんで」いる自分があります。山北の良さをみんなに知ってもらいたい。山北で良いと思ったものを買える場が少ないので、そういう場を作りたい。百姓やってみ隊で使う空き家をシェアスペースとして、山北の人でも外部の人でも自然と集まれる場にしたい。ワークショップやまち歩きを積極的に取り入れたい。と、やりたいことはたくさんありますが、まずは力まず自分が思い切り山北を楽しもうと思っています。

まだまだ私は山北については新参者。でも、新参者だからこそ気づくこともある。まずは1年間、山北の人と一緒に考えながら走っていききたいと思っています。



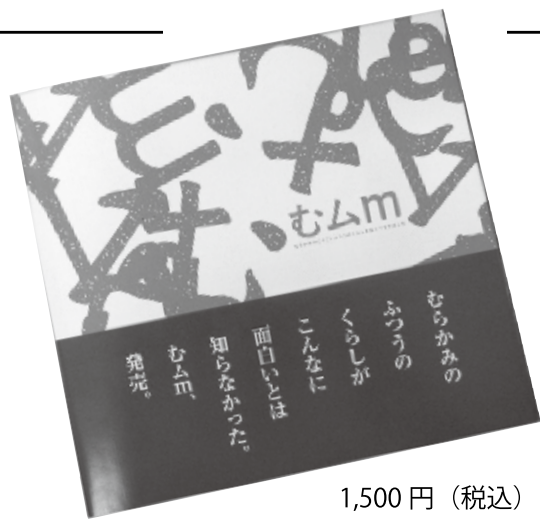
村上の魅力が「わかもの」が形にする

村上市観光協会 × 長岡造形大学

昨年度、村上市観光協会と長岡造形大学の学生が協働し、一冊の村上観光ブックを制作しました。この地域のごくごく普通の暮らしの中で気づいた魅力や、住んでいながら気づかなかった事を教えてくれる本「むムm」。

「町」・「鮭」・「食」・「家」・「茶」の5つのテーマで制作された「むムm」は、長岡造形大学の学生がコンセプト決めから原稿書き、イラスト、デザイン、構成など、何度も検討会を重ねて作り上げた一冊です。

学生たちと協働したことにより、地域外からの視点で描かれた「むムm」は、学生たちが何度も



1,500円 (税込)

〈村上市内販売場所〉

- ・駅前案内所「むらかみ旅なび館」
- ・村上市役所 商工観光課
- ・イヨボヤ会館
- ・おしゃぎり会館
- ・夕映えの宿 汐美荘
- ・大観荘せなみの湯
- ・朝日みどりの里

〈新潟市〉

- ・メディアシップ1F 情報工房 DOC

〈長岡市〉

- ・長岡造形大学売店

(平成27年6月15日現在)



何度も村上に足を運び、たくさんの人たちにインタビュー。丁寧な取材をもとに作成しました。

この地域に足を運び、見て聞いて体験した中で気づいた、地域の宝がぎゅっしり詰まっています。ぜひ一度お手にとって読んでみてください。



自然を活かした協働の取り組み

高根集落 × キヤノンマーケティングジャパングループ(株)TOTO

現在高根集落では、2つの企業との協働を行っています。

キヤノンマーケティングジャパングループ(以下、キヤノンMJグループ)とは平成22年から「棚田のふるさとづくり」を行っています。

キヤノンMJグループ・認定NPO法人共存の森ネットワーク(東京にある大学生の団体)・高根フロンティアクラブの3者が協働した活動として、棚田での米作り



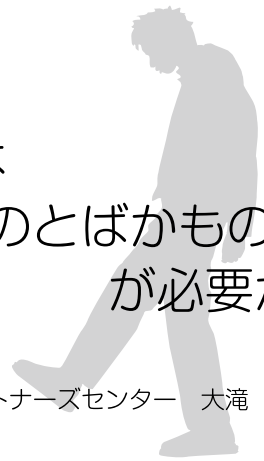
5年続いた棚田での米づくり。仲が深まり、最近の挨拶は「ただいま」と「おかえり」になってきた。

(田植え、草取り、稲刈り)や集落運動会、道普請などの地域行事への参加を通して、季節ごとに地域住民と社員の方々が一緒に汗を流し、交流を楽しんでいます。

平成20年からTOTOグループの受け入れが始まりました。グループ社員が自ら育てたどんぐり(ナラ)の苗木を集落の遊休地に植える「TOTOどんぐりの森づくり」に取り組み、現在は、下刈り等の作業に年2回大勢の社員の方が来ています。作業後は懇親会で親睦を図ります。また集落側としても、TOTO信越支社(新潟市)で行われる展示会のイベント等に参加、協力しながら交流を進めています。



新入社員の方々が初めての田植えに挑戦。日頃、パソコンと向き合う仕事ばかりのため、新鮮な体験。



なぜまちづくりには 「よそものとわかものとばかもの」 が必要か

都岐沙羅パートナーズセンター 大滝 聡

よくまちづくりのフォーラムなどで「まちづくりには、よそものとわかものと、ばかものが必要だ」というご挨拶をされる方が多いのですが、その度に「え、またその話ですか?」とうんざりしつつも、なぜそのなのかというのをよくよく考えてみると、とても的を射たことなので改めてそのことの重要性について考えてみようと思います。

まず「よそもの」の重要性ですが、私が所属する都岐沙羅パートナーズセンターと一緒に活動をしている齋藤(主税)のことを見ているとよく

わかります。彼は東京のコンサルタントに勤務していた時に、広域圏におけるまちづくり事業の担当としてこの村上・岩船地域に赴任し、その後この地に根付いたいわゆる典型的な「よそもの」です。その後めきめきと力をつけ、この地域のまちづくりには欠かせない存在になっていきますが、彼にはもともと地域にしがらみがないため、周りの人は彼を純粋に能力で評価してくれます。また彼も余計な先入観を持っていないので客観的に地域を見ることができ、ある意味怖いもの知らずな活動ができます。そういったことから、よそものは新しいタイプのリーダーやコディネーターになりやすいということとがいえるのです。

次に「わかもの」ですが、彼らの強みは何といっても古いものに縛られない独創性と行動力にあるでしょう。しかし現実にはなかなかそうした能力を発揮できないことが多いのも事実です。若者はとにかく型にはまった考え方を嫌う傾向にありますので、従来の枠組みの中で新しいことを生み出せといってもモチベーションが上がらず、やる気が起きない状態になっている場合が多いのです。そうした状況を見て、周りの大人は「若者なんて…」と思ってしまい、協働が進んでいかなない原因を作り出しています。

村上の協働事例を集めた「協働の本」

最近、「協働」という言葉をよく目にするようになりました。「同じ目的のために、力を合わせて働くこと」を意味するこの言葉。村上市内各地で実践され、すでに大きな成果を見せています。昨年2月に発行された「協働の本」には、地元企業とNPOの協働、県外企業と地域の協働、NPOどうしの協働の3つの分野について、村上での事例を紹介しています。無料で配布しておりますので、気軽にお問い合わせ下さい。



<お問い合わせ先>

NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター
村上市猿沢 1238
TEL:0254-72-0663 FAX:0254-72-0723
E-mail:info-tsukisara@tsukisara.org

都岐沙羅パートナーズセンターでは、現在村上市内にある建設会社社のモデルハウスをお借りして若者の居場所づくりを行っています。ここでは定期的に「おしゃべりcafe」というフリートークサロンを開いています。この場の参加者は基本的に若者が対象なのですが、最近になってそこから、まちの中の様々な職種の人と「出会う・話そう・つながろう」という若者向けのユニークな異業種交流会の企画が発案され、実施に移されています。

このように若者には集える「場」と制約の少ない「機会」を与えてあげると、独創的なアイデアとそれに伴った自主的な行動が生まれてきます。これがまちづくりを行う上で有効に働き、常に斬新な取組が行

えるよつになるのです。

最後に「ばかもの」ですが、これは熱意のある人という意味でしょう。こういう人が多いかどうかは、そこで行われているまちづくりが楽しいかどうかに関わってきます。楽しいということは、成果が行動に伴って生まれているということの証明です。まちづくりにはそうした小さな成功体験の積み重ねが必要で、みんなが一步一歩階段を上っているような実感を味わうことが重要なのです。

以上、私なりに「よそものと、わかものと、ばかもの」がなぜまちづくりに重要なのかということについて書いてきました。こうした方々を一人でも多く生み出していく地域環境を作り出す必要があると思っています。



玄関に入って正面に見える箱階段。
収納兼展示スペースとして活用されており、
郷土玩具の鯛ぼんぼりが目を引く。

まちづくり協議会が開設する まちづくりの拠点

注目!

「土間ん中」
村上市上町 1-36
開館時間 10:00~15:30



5月17日にオープンした「土間ん中」
地元の人をはじめ、観光客も気軽に立ち寄れる
“土間”となっている。

村上地域コミュニティ空間 「土間ん中」

村上市上町にある村上地域コミュニティ空間「土間ん中」。村上地域まちづくり協議会では、地域の方が集い繋がり、まちづくり活動の核となる施設になるよう昨年度から改修を進め、5月17日にオープンを迎えました。
町屋の「土間」と地域の「ど真

ん中」をかけ合わせて名付けられた「土間ん中」は、町屋の土間に
入るようにどなたでも気軽に立ち
寄ってくださいたいという意味が込め
られています。観光客の方への情
報発信や、ちよつと一息といった
お休み処としても、たくさんの方
に活用されています。
ちよつとしたおしゃべりや、会
議、情報発信などの他、ミニコン
サートや作品展示をやってみたい
といった声も聞こえており、今後
さらに色々な可能性が広がりを
楽しんでいます。これからの展開が



箱階段を上ったところにある座敷。
落ち着いた話し合いにはびったりの空間。

あらかわ地区まちづくり協議会 「荒島保育園」

あらかわ地区まちづくり協議会
では、拠点として平成25年3月に
閉園した旧荒島保育園の活用を検
討しています。昨年度1年間かけ
て、まちづくり協議会メンバーで

ワークショップを重ね、どんな場
所にしていきたいか、誰が関わる
のかなどについて、皆さんからの
アイデアや想いを集めてきました。
今年度からは少しずつ改修を
行っていく予定とのことで、今後
の荒島保育園に注目です。



昭和50年に建築された旧荒島保育園。子どもたちの
声が聞こえなくなり、寂しい雰囲気。(写真上)

ワークショップの様子。子ども用の小さな椅子に座り
ながら真剣な話し合いが行われた。(写真右)



農業女子・時田千秋さんに直撃！



時田千秋さん 29歳 村上市荒川地区

1985年、村上市生まれ。短大卒業後、地元銀行に就職したが、一念発起し退職。農業大学校へ進学して稲作について学び、現在は神林地区の新潟ゆき(株)に勤務しながら、自らの田んぼでも米づくりに取り組む。仕事以外でも地域活性化モデル今井美穂さんとのオリジナル農作業着デザイン、野菜ソムリエさんのレシピ本づくりに参加するなど、様々な分野で精力的に活動している。

異色の経歴をもつ時田さん。農業を始めたきっかけは？

【時田】もともと実家は稲作とユリ農家だったため、農業という職業は身近な存在でした。でも、父が亡くなり、農家を辞めて農地も貸すことになったため、自分がその仕事に就くことになるのは想像していませんでした。

農業に強い関心を持つようになったのは、社会人になってからです。働き方について考えたとき、生きる上で欠かせない、私の大好きな『食』に直結している農業という仕事に、強い魅力を感じようになりました。勇気のいる決断ではありましたが、ハイヒールから長靴に履き替えただ今、農業が一番自分に合っている最高の仕事だと思っています。

農業を仕事にして3年経って思うことは

【時田】とても楽しく充実しています。農業と一言で言っても仕事は様々です。今は直売所



田植機乗車体験実施中。初めて田植機に乗った小学1年生の男の子は緊張気味。

での販売や加工品づくり、事務作業などを中心に行っていますが、現場で泥や汗にまみれる仕事も、もちろん大好きです(笑)。

昨年からは、自分の家の田んぼで米づくりを行うようになり、仕事としての農業とはまた違ったフィールドができたことで、やりたいことも増えてきました。特に、子どもたちをはじめ、いろんな人たちが気軽に土と触れ合い、楽しく農に関わる機会を設けることで、米づくりを身近に感じてもらいたいという思いが強くなりました。

その思いを村上の若い人たちが集まる「おしゃべりCafe」で話したところ、子どもに田植え体験をさせたいというお母さんと出会い、自分の思いに共感してくれた仲間と一緒に「時田植え」というイベントを企画して、今年初めて自分の田んぼに人を呼ぶことになりました。

イベントの反応と今後は

【時田】みんなで田植えをして、かまどで炊いたご飯を食べるという企画でしたが、お子さん連れの家族や若い女の子など、20人ほどが集まり、「こんな機会が欲しかった」、「とても楽しかった」という声を聞くことができました。参加できなかった方からも「来年は参加したい」と言われ、体験の場を求めている人が多いことも分かりました。自分の家の田んぼが、たくさんの方の笑顔で賑わって嬉しかったです。家でも稲の成長を見守ってもらえるよう、同じ土と苗で作ったバケツ稲を持ち帰っていただいたので、今後のつながりも楽しみです。まだまだ勉強の毎日ですが、一歩一歩を大事にしながら、これからも明るく楽しく農業の魅力を発信していきたいと思っています。



自然の中でお腹も心も満たされて、あふれる笑顔！

密集した竹を伐採して、粉碎する作業を行う。



地域団体紹介

ながつしょうがっこう 長津笑楽講

連絡先：長津笑楽講 事務局
住所：村上市笹平 1795-1
TEL・FAX:0254-75-5782



- 活動分野：地域づくり
- 活動地域：村上市長津地域（旧朝日村笹平・瑞雲・釜杭・小揚）

高齢化率30%を超える長津地域を過疎化から守り、活性化させていくことを目的として活動を行う団体です。現在、新潟県が過疎・高齢化等により地域内の活動の担い手が不足している集落の活性化を図るために行っている「大学生の力を活かした集落活性化事業」に手を上げ、新潟大学法学部の地域政策協働センター長津地域活性化

プロジェクトチームの学生と共に、竹林整備や地域の現状調査などに取り組んでいます。今年度からは、地域おこし協力隊を迎え、「よそもの」「わかもの」と協働しながら、長津地域を「ながつ・すき」（長続き）する地域へと変えていくことを目標に活動を行っています。

編集後記



今年度より、「むらかみ元気マガジン」取材・編集につきまして、NPO法人都岐沙羅パートナーズセンターで行うこととなりました。私たちは、村上岩船地域（村上市・関川村・粟島浦村）で活動されている方や団体を応援し、地域の元気づくりに取り組みんでいます。（活動詳細は前号をご覧ください）

村上市では、各地区まちづくり協議会をはじめ、多くの地域団体や個人の方が活発に活動されています。しかし、日常生活の中で、そういった活動の情報を目にする機会が少なく、どこで、誰が、どんなことをしているのかわかりづらいという課題もありました。そこで今年から、まちづくり協議会の活動に限らず、「村上の元気づくり」につながる活動を幅広く掲載すること致しました。ご紹介できる内容に限りはありますが、この地域の魅力を支える「人」たちをお届けする紙面にしていきたいと考えておりますので、ぜひみなさんのお願いを致します。

〈発行元情報〉

発行日 平成27年7月1日(年3回発行)
取材・編集 特定非営利活動法人
都岐沙羅パートナーズセンター
発行責任 村上市自治振興課
連絡先 0254(53)2111
内線331